

(学校運営協議会・報告様式)

令和3年度 第4回 白子小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日時 令和3年10月26日(火) 15時30分～

2 参加者 10名

委員長 杉野 絵美 副委員長 野村 奈央,

委員 和田 隆, 山中 晃, 喜田 園子, 松野 弘子, 内山 安司, 永田 みちよ

校長 浅井 和代 教頭 松本 博

3 内容

(1) 全国学力・学習状況調査の結果・分析について

令和3年5月、6年生を対象とした「令和3年度全国学力・学習状況調査」が実施された。この調査は、児童の学力・学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としている。本校の結果の概要について、学校長より学校だよりをもとに学校運営協議会の皆様に説明した。

① 国語・算数の教科に関する調査結果から

<強み>

国語

- ・スピーチの目的に応じた資料の特徴を理解し、それを使って話す。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。
- ・漢字を文の中で正しく使う。(但し、「積み重ねる」の無解答率はやや高い。)
- ・語句(助詞)の使い方を理解し、話や文章の中で使う。

算数

- ・ある時刻から一定時間の後の時刻を求める。
- ・棒グラフから、必要な数量や項目間の関係を読み取る。
- ・データを二次元の表に分類整理する。
- ・商が1より小さくなる(整数)÷(整数)の問題場面から、数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする。

<弱み>

国語

- ・目的に応じ、スピーチの構成を考えたり、スピーチに用いる資料の目的を理解したりする。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり、中心となる語や文を見付けて要約したりする。
- ・自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考え、書き表し方を工夫する。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉える。

算数

- ・二つの道のりの差を求めるための求め方と答えを記述する。
- ・速さを求める除法の式と商の意味を理解する。
- ・三角形の面積、複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述する。
- ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する。

② 児童質問紙の結果から

<強み>

- ・自己肯定感や友達への関心は高い。
- ・授業の中で、ICT機器の活用や、話し合い活動を通じた伝え合いを積極的に行っている。

<弱み>

- ・自己改善力や思いや考えを表現する力が弱い。
- ・ゲームの使用時間や使い方に課題がみられる。
- ・地域や社会への関心が低い。
- ・自ら課題をもち、考えを広げ、自分の考えが相手に分かるよう工夫して表現する力が弱い。

③ これからの学校の取組

ア 授業改善に向けて

- ・学習活動の中で、話し合う場面を設定し、互いの考えを伝え合うことで、「わかった」「楽しい」と思

えるような新たな気づきや深い学びのある授業をめざす。

- ・子どもの思考の流れに沿って、「めあて」「まとめ」「ふり返し」を位置づけた授業を行う。
- ・目的に応じた文章を書くために、書く視点を明確にしたりモデル文を提示したりする等、子どもたちにとって書きやすい手立てを講じる。

イ 基礎・基本の定着と家庭学習の充実に向けて

- ・授業の見通しの提示，視覚的な支援などを工夫し，分かりやすい授業づくりを進める。
- ・音声計算や自主プリント，ICT 端末を活用したドリル学習等を通して，基礎的な力をつける。
- ・家庭学習の意義を指導し，計画的・自主的（特に高学年）に家庭学習に取り組む習慣を育てる。

④ 家庭・地域のみなさんとの連携

- ・子どもの成長やよさを認め，褒め，前向きな気持ちを育んでいく。
- ・健やかな成長と学力の育成のために，「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣をつけていく。
- ・家庭学習の時間を確保していく。
- ・地域・社会の出来事等を家庭内で話題にし，家族のふれあいを大切にすると共に，社会に目を向けるきっかけを作っていく。又，ゲームのやり方について家庭でお子様と話し合っていただく。

⑤ 意見交換（体育発表会や授業の様子を見て）

- ・辞書引きについて

1年生の3学期より，辞書引きを始めている。1年生から辞書引きをすることにより，ことばを大切にすることに効果があるのではないか。

- ・授業の様子

教師の話をしっかり聞き，落ち着いて学習に取り組む子ども達の様子が見られる。しかし，見方を変えると，コロナ禍の前と比べると，子どもたちが大人しくなったように感じられる。

- ・自主的な活動について

代表委員会による「あいさつ運動」の取組など子どもたちによる自主的活動の取組を進めていく。

- ・答えを導き出す過程の大切さ（1年生「9+5」の理解より）

答えを求められるだけでなく，答えを求める過程を説明できるようにしていくことが大切である。図やブロックを使ったりするとともに，ICT 機器やデジタル教科書を取り入れながら，理解が深まる学び合う場面を設定している。

- ・自己肯定感について

自分によいところがあると思っている子どもたちの割合が高いことはうれしい。引き続き，学校としても，取組を継続していく。

- ・基礎基本の定着に向けて

学力に個人差がみられる。学力の低い子をどう支援するかが必要ではないか。

一人ひとりの学習の理解度に合わせて，TT や学習支援員等を活用し，学習支援を行っている。

- ・新聞を読んでいる子どもたちの割合

新聞を読んでいる子どもたちの割合が低い。そもそも新聞を定期購読されている家庭が減ってきていると思われる。新聞にかぎらず，ファミリー読書など，家庭にも協力いただきながら文章を読む機会をつくりたい。

（2）児童の様子について

・体育発表会で，1年生のラジオ体操の様子をみた。夏休みの朝のラジオ体操では，なかなか動きを覚えられなかった子たちも，先生方の指導のおかげもあり，しっかりラジオ体操をしていて驚いた。とても感心した。

4 配付資料

（1）令和3年度第4回白子小学校運営協議会事項書

（2）学校だより NO.18 NO.19

（3）第5回学校運営協議会開催について